

未来ひだか

みらくる



2014年1月

日高農業改良普及センター



今こそ経営の見直しを！

未来のひだかを見据えて！



新年、あけましておめでとうございます。

昨年は春先の低温により、施設園芸や水稻で作業や生育が遅れ、その影響で野菜類の出荷時期が1週間程度遅れるなど、先行きが心配されるスタートとなりました。しかし、皆様が適切な生産管理技術に努めていただいたことにより、生育は軒並み回復基調となりました。

水稻は、作況指数が104と3年連続で平年を上回り、施設園芸は果菜類を中心に販売金額が軒並み過去最高を記録する結果となりました。また、肉牛の素牛販売も市場価格が堅調に推移し経営の安定に大きな影響を与えました。さらに、ホッカイドウ競馬の売り上げも140億円を超え13年ぶりの高い水準となるなど、明るい材料が多い年だったといえましょう。これもひとえに、日高農業の生産振興に取り組んでおられる生産者の皆様をはじめ関係機関一体となった活動成果の現れと心より敬意を表します。

しかし、TPPなど国際的に農業を取り巻く情勢は依然予断を許さず、さらに水田農業政策は大きな見直しが見込まれ、これらの変化が日高の農業に影響を与えることは必至です。

普及センターといたしましても、生産者と消費者が安心、安全な農畜産物でつながる日高農業を目指して関係機関と一体となって取り組み、6次産業化の推進などあらゆる場面をとおして生産者の方々の所得確保、地域農業の発展に寄与してまいります。

さらに、自分たちが作った農畜産物に責任とプライドを持って消費者に提供することは当然ですが、安心、安全な取り組みをより深く理解してもらうためには、GAPなど第三者から認証を受ける活動も必要と考えています。どんなに時代が変わっても、食をとおして国民の方々の健康維持・向上に貢献する使命と役割に変わりはありません。

どうか皆様におかれましても、今一度農業生産技術や経営の見直しをしていただき、消費者と信頼を築くための営農について考えていただきたいと思います。



指導農業士・農業士研修会にて
参加者と普及センター職員

参考にしよう！地域の活動事例

～詳細は日高農業改良普及センターホームページで紹介しています～

アドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

指導農業士・農業士会現地研修会を開催！

【広域人材育成】

平成25年10月4日、日高管内指導農業士・農業士会現地研修会が開催されました。

今回は、新冠町美宇の益子牧場視察と農業支援員各位との意見交換会、新ひだか町三石の宮田農場の花き栽培状況視察などを実施しました。昼食会では、新冠町の農業支援員6名から新たに農業に従事する中での問題点が述べられ、指導農業士・農業士が適切なアドバイスとエールを送る場面ともなりました。

農業者の高齢化が進む日高管内において、若手の農業参入希望者の存在は地域農業において良い刺激となり、「新規参入者の確保、育成の必要性」を実感する研修会となりました。研修後には、意見交換会で会員相互の情報交換を行い有意義な1日を過ごしました。



益子牧場視察風景



農業支援員との昼食会



宮田農場視察風景

地域リーダーが考える日高農業の生き残り策【広域4主査プロジェクト】

日高管内の広域を担当する4名の主査が本年度のプロジェクト活動として、日高管内の地域リーダー（指導農業士・農業士、女性グループリーダー、法人代表、生産組織リーダーなど）を対象に、これからの日高農業を発展させるための対策について聞き取り、普及センターの活動に反映させようと取り組んでいます。

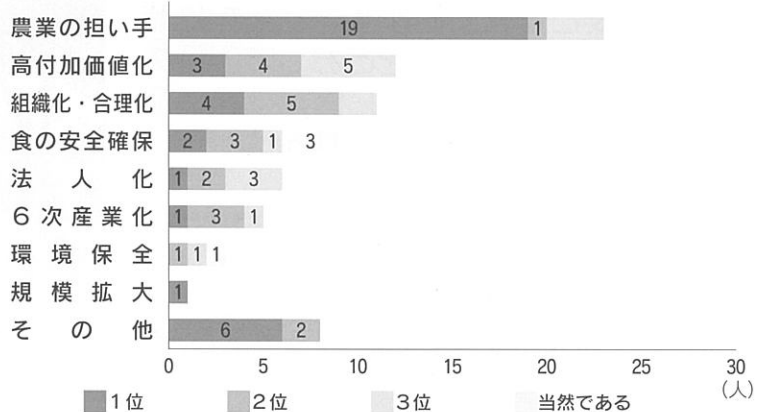
平成25年の8月から聞き取りを開始し、現在36名の意見についてまとめています。

調査方法は「農業の担い手」「食の安全確保」「環境保全」「高付加価値化」「6次産業化」「組織化・合理化」「規模拡大」「法人化」「その他」の9つのキーワードから、重要順に3つを選択してもらい、最重要キーワードについてはその対策について回答いただいています。

やはり最も重要視しているのは「農業の担い手」対策です。

地域外からの参入者の受入や、第三者継承の仕組みづくり、学校教育との連携など、地域全体で取り組むべきという声が出されています。

普及センターでは今後の意見も含めて普及活動に生かしていくよう、地域のリーダー、関係機関と協力していきたいと思っています。



リーダーの意見集約状況（10月10日現在）

MFTの生態・駆除対策

【日高地域農業支援会議】

日高管内の草地で問題となっているメドウフォックステイル（以下、MFT）の更新時の駆除方法確立に向けての取り組みはこれまでも行われていますが、今年度は「更新前の前植生早刈りによるMFT駆除」として様似町の採草地で実証試験ほを設置しました。

これまでの取り組みや入手した情報から①落下したMFTの種子の寿命は2年程度、②1番草開花3週間前（6月15日頃）まではMFT種子は発芽能力を持たない、という仮説に基づき、以下の項目を試験のポイントとした取り組みとしました。

- (1) 収穫時期が過去2年間、1番草収穫を6月15日以前に行っている
- (2) 除草剤散布は「前植生」及び「は種床」の2回処理を行う
- (3) 雑草競合力のある「オーチャドグラス（以下、OG）」をは種する

今後は向こう2年間調査・検証を行い、管内の畜産、軽種馬生産者への報告を予定しています。



処理前の試験ほ（5月下旬 MFT出穂）



試験ほ設置（7月3日 除草剤散布）



は種作業（9月13日）

産地の作物生産を害虫被害から守ろう！！

【園芸担当者会議】

<オオタバコガ>

オオタバコガは多くの作物を加害する広食性害虫です。北海道では1982年から発生しており、発生生態や防除対策等が確立されていません。

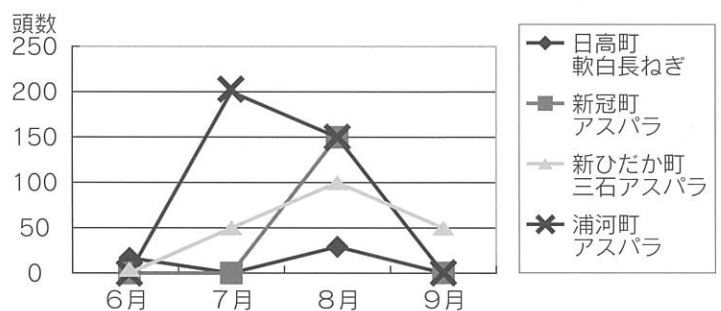
そこで日高管内4カ所にフェロモントラップを設置し飛来時期調査を行いました。その結果、7月下旬～9月上旬に発生が確認されたものの、作物被害はありませんでした。

<アザミウマ類>

アザミウマ類は繁殖力が旺盛で短期間で1世代を経過します。気温が高くなると徐々に密度を高め、防除が困難となります。そこで、日高管内4カ所に粘着板を設置し発生消長を確認しました。その結果、7月下旬～8月下旬と発生量が増えたものの、大きな作物被害はありませんでした。

平成25年 オオタバコガの発生状況結果

調査地点	日高町	平取町	新冠町	浦河町
調査作物	トマト	トマト	ピーマン	いちご
初発時期	9月上旬	7月下旬	—	8月中旬
総誘殺数	3	6	0	3
被害状況	なし	なし	なし	なし



平成25年 日高管内アザミウマ類発生消長調査

注目! 地域の話題コーナー

平取町GAP推進活動

【平取町】

JA平取町トマト・胡瓜部会は、平成11年にYES!cleanの認証を取得し、その後も21年に若手生産者5名からなるGAP推進員を配置し、安心・安全なトマト生産に向け活動を展開してきました。

昨年は普及センター本所よりGAP指導員の資格を有する主査（情報・クリーン・有機）の支援を仰ぎ、今後の活動の在り方やGAP認証取得の可能性などについて、GAP推進員と検討協議を重ねてきました。

今後は、①肥料農薬の適正管理 ②生産者自身が働きやすいほ場の環境整備 ③びらとりトマト産地としてのルールづくりに主眼を置き、生産者とともに更なる生産基盤の強化に向けた活動を展開していきます。

GAP（農業生産管理工程）とは、農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のことです。

これを農業者や産地が取り入れることにより、結果として食品の安全性向上、環境の保全、労働安全の確保、競争力の強化、品質の向上、農業経営の改善や効率化に資するとともに、消費者や実需者の信頼の確保が期待されます。



本所主査とGAP推進員との打合会議

一度来て！観て！新冠

【新冠町】

平成25年9月22日酪農家の清水秀人さんを代表とする新規就農希望者の集い「一度来て！観て！新冠」がに開催されました。

今年で2回目となるこのイベントは、新冠の地域、農村生活の良さを知ってもらおうと、新規参入した農家と、これから就農しようとする農業支援員、主旨に賛同する若手農業者が協力し、地域担い手育成総合支援協議会の協力を得ながら行われたものです。

当日は、より地域に親しんでもらおうと、バスによる町内視察、施設園芸農家の竹中浩二さん宅でピーマン収穫の体験などが行われました。

また、昼食時には清水さんの牧場で交流会が行われ、町外から足を運んでくれた8名の参加者を囲んで家族ぐるみの歓迎がなされました。参加後のアンケートでは、「これまであまり新冠を知らなかった」「また、来てみたい」などの感想が寄せられ、今後の展開が期待されます。



立桶支援員による
ピーマン収穫の説明



清水さんによる歓迎の挨拶で交流会



最後に参加者全員で記念撮影